

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

令和6年度大阪市小学校学力経年調査では、全学年、すべての教科で大阪市の平均正答率を下回っている。授業に対しての意欲や好感度は中・高学年とも、大阪市の平均と同等の教科(社会・英語【外国語】)も見られるが、国語・算数では下回っている(国語-12P、算数-8P)。

また、令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、体力合計点が男女とも、大阪市の平均を下回っている。学校の授業以外での1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合が大阪市の平均より大きいことから、体を動かす機会が少ないことが課題である。学校における体を動かす機会の十分な確保や自ら運動する楽しさを味わわせる機会の設定等が必要である。

令和6年度の小学校学力経年調査の児童質問紙では、「学校のきまりを守っている」と回答した児童は88%である。しかし、日常的なもめごととも少なからずあり、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は78.4%である。遅刻や不登校児童も少なくない。「自分にはよいところがある」と回答した児童も73.6%と決して高くない。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「はじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査の「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を33%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より2ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を63%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査における「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を100%にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末に85%にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(R5 71.4%、R6 71.8%)
- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R5 74.5%、R6 78.4%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R5 69.0%、R6 73.6%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を33%以上にする。(R5 29.0%、R6 31.4%)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。(R5 57.8%、R6 64.0%)

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕(R5 約3割/日、R6 約6割/日)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、98%にする。(R5 81.5%、R6 97.4%)

## 3 本年度の自己評価結果の総括

- 「安全・安心な教育の推進」については、各種調査における肯定的回答の割合が概ね向上した。とくに「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は目標値を上回り、自己肯定感の醸成に一定の成果が見られた。一方、「いじめはどんな理由があってもいけない」と最も肯定的に回答した割合は目標値には達しておらず、継続的な指導の充実が課題である。
- 「未来を切り拓く学力・体力の向上」については、体力向上に関する取組において成果が見られた。一方、話し合い活動を通じて思考を深める力の育成については、指導方法のさらなるくふうが必要である。
- 「学びを支える教育環境の充実」については、ICT活用の推進および働き方改革の取組を継続し、一定の改善が見られたものの、目標値未達成の項目については次年度に向けた改善策の具体化が必要である。

## 大阪市立荻田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</li> </ul>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【<b>基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめの未然防止・早期発見、早期対応の取組を組織的に行う。</li> <li>・ いじめの早期対応における校内研修等を実施する。 (いじめへの対応)</li> <li>・ 児童どうしのつながりを増やす取組を行うとともに、不登校児童に対するアプローチを継続して行う。 (不登校への対応)</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が毎日、自分の気持ちを学習者用端末に入力する「心の天気」を活用し、回答が気になる児童に確実に対応する。</li> <li>・ いじめアンケートを学期に1回以上実施し、いじめの早期発見に努める。</li> <li>・ 高学年において非行防止教室を実施するとともに、道徳の学習や学級活動において、いじめ防止や集団育成の授業を年3回行う。</li> <li>・ 児童どうしのつながりを増やすためにたてわり班活動等を月1回以上行う。</li> </ul>	
<p>取組内容②【<b>基本的な方向番号2、豊かな心の育成</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が自己肯定感を高め、他者への理解や思いやりの気持ちが育つような取組を行う。 (仲間づくり)</li> <li>・ 各学年において、互いにちがいを認め合い個性を伸ばす取組、国際理解、平和学習、インクルーシブ教育を行い、全体で共有する。 (国際理解・平和学習・インクルーシブ教育の推進)</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポジティブ行動支援に取り組む。</li> <li>・ 国際理解、平和学習、インクルーシブ教育に関わる取組を全学年で実践する。</li> </ul>	

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答した児童の割合は84.4%だった。目標値には達しなかったが、前年度より改善し、大阪市平均（83.0%）を上回った。（R6 71.8%）
- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は83.0%だった。目標値には至らなかったものの、前年度より向上した。（R6 78.4%）
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は82.3%であり、目標値を上回った。（R6 73.6%）
  - ・ 「心の天気」については、日ごとの入力率を教職員間で共有し、児童への入力を促進したが、全児童が毎日入力する状況には至らなかった。要因として、日課の中で入力時間を十分に確保できなかったことが考えられる。
  - ・ いじめアンケートは学期に1回実施し、該当児童への聞き取りおよび保護者連絡等の対応を行った。
  - ・ 高学年を対象とした非行防止教室を実施した。また、年間を通していじめ防止や集団育成に関する授業を計画的に実施した。
  - ・ たてわり班活動は月1回以上実施し、異学年間の交流促進を図った。
  - ・ 年度当初に全校行動目標を設定し、組織的に取組を推進した。また、ポジティブ行動支援の強調週間を実施し、児童の意識向上を図った。
  - ・ 各学年において年間指導計画に基づき、三本柱（国際理解・平和学習・インクルーシブ教育の推進）を中心とした実践を行った。その結果、関連する意識の向上が見られた。

### 次年度への改善点

- ・ 「心の天気」については、入力時間の確保および運用方法の見直しを行い、確実な活用体制を構築する。必要に応じて担任の端末活用等も検討し、実効性の向上を図る。
- ・ たてわり班活動については、グループ編成の見直しや活動内容の精選を行い、少人数での交流やペア活動等を取り入れることで、児童相互の関係性をより深める取組へと改善する。
- ・ いじめ対応については、組織的対応の流れを再確認し、教職員間での共通理解を一層徹底する。
- ・ 児童の自己肯定感のさらなる向上をめざし、ポジティブ行動支援の充実および日常的な肯定的評価の機会を拡充する。

## 大阪市立荻田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を33%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① <b>【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で友だちと話しあう活動の場を設ける。（話しあう活動の機会の充実）</li> <li>話しあう活動を終えたあとに、ポジティブなフィードバックを行う。 (自己肯定感の向上)</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元に1回以上、友だちと話しあう活動の場を設ける。</li> <li>活動の後には、話しあう活動を通じて分かったことや気づいたことを発表させたり、ワークシートに書かせたりして、児童の考えが深まったことや広がったことを称賛する機会を増やす。</li> </ul>	B
<p>取組内容② <b>【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら運動に取り組む児童を育成する。（体育学習の充実）</li> <li>衛生的な習慣が身につくようにする。（規則正しい生活習慣）</li> <li>児童の発達段階にあわせた栄養指導を行う。（食に関する教育の充実）</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縄跳びや持久走の強調週間を設けて、自ら運動する楽しさを味わう機会を増やす。</li> <li>手洗い強調週間を年3回行う。また、せいけつ調べ（ハンカチやティッシュを持ってきているか等）を週に1回各学級で行う。</li> <li>月ごとに残食量を計算し、残食を減らしていくような取組を行う。学年ごとに年2回栄養指導を行い、給食だよりと食育通信を各教室でも掲示する。</li> </ul>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は29.2%であり、目標値に達しなかった。(R6 31.4%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は70.5%であり、目標値を上回った。(R6 64.0%)</p>	

- ・ 授業において、友だちと話しあう活動の機会を全学年で設定した。
- ・ 話しあい活動の後に、指導者によるポジティブなフィードバックを行った。
- ・ 縄跳びや持久走の強調週間をペア学年で設定し、自ら運動に取り組む機会を拡充した
- ・ 手洗い強調週間を年3回実施し、手洗いの習慣化に向けた意識づけを図った。また、せいけつ調べを週1回全学級で実施した。
- ・ 各学年において年2回栄養指導を実施するとともに、給食だよりおよび食育通信を教室内に掲示した。
- ・ 残食量については、長期休み明けや欠席者が多い時期には、増加傾向が見られたものの、4月から12月までの平均と1月の平均を比較すると29%減少している。栄養指導や給食時間における巡回指導、給食委員会による残食量調べと、その結果を掲示して残さず食べようという啓発活動等の取組が一定程度寄与したものと考えられる。

#### 次年度への改善点

- ・ 話しあい活動については、学年段階に応じた到達目標を明確化し、指導方法の体系化を図る。低学年は「自分の意見を相手に伝える」、中学年は「自分の意見と他者の意見を比べて、ちがいに気づく」、高学年では、「他者の意見をふまえて、自分の考えをもつ」ということを基本的な指標として、指導の充実を図る。
- ・ せいけつ調べは週1回実施しているが、ハンカチやティッシュを持ってきていない児童が一定数見られることから、実施回数の見直し等を含め、忘れの減少にむけた取組が必要である。
- ・ 残食量については、長期休業明けや感染症流行時には欠席児童が増加することにより、残食量が増える傾向が見られる。また、残食量の減少をめざすことが一部児童の過度な摂取につながる可能性も指摘されていることから、健康面への配慮とのバランスをふまえ、次年度は取組内容の見直しを行う必要がある。

## 大阪市立荻田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、98%にする。</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① <b>【基本的な方向番号6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝の業間活動の時間にデジタルドリルに取り組むことを位置づける。 (個別学習の充実)</li> <li>双方向オンライン学習訓練を行い、児童が学校だけでなく家庭においても学習者用端末を活用できる環境を整える。 (ICT教育の充実)</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週水曜日と、隔週で月曜日をぐんぐんタイムとし、学習者用端末を活用する。</li> <li>年間を通じて学習者用端末を活用できるよう、1学期に双方向オンライン学習訓練日を設定する。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>取組内容② <b>【基本的な方向番号7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員での会議を精選し、パソコンでのネットワークを積極的に活用する。</li> <li>紙媒体への印刷業務を減らし、ICTの活用や教材の共有化を図る。 (働き方改革の推進)</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの文書は、ミマモルメールで配信する。</li> <li>スクールサポートスタッフとの連携を図り、印刷業務にかかる時間を削減する。</li> <li>年間の時間外勤務時間を、教員1人あたり360時間以内におさめる。</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、年間授業日の16.9%だった。目標値には達しなかったが、前年度より向上した。(R6 0.5%)</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は、97.5%だった。目標には届かなかったものの、高い水準を維持している。(R6 97.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週水曜日および隔週月曜日の朝の業間活動の時間を「ぐんぐんタイム」と位置づけ、デジタルドリルに取り組んだ。あわせて、全学年において双方向オンライン学習訓練を実施し、家庭における学習者用端末の活用状況を確認した。通信環境が整っていない家庭に対しては、モバイルルーターの貸出等の支援を行い、学習環境の整備を図った。保護者を対象とした学校アンケートでは、「学校は、ICT・学習者用端末の活用など、</li> </ul>

学習環境の整備に取り組んでいる。」の項目において、肯定的回答は94.7%となり、前年度と比較して10ポイント上昇した。(R6 84.7%)

- 学校からの文書についてはミマモルメを活用し、紙媒体での印刷業務の削減およびペーパーレス化を推進した。
- 一人当たりの時間外勤務の平均時間(4月～1月)は19時間29分であった。年間換算では約234時間となり、指標の範囲内で推移している。(R6 23時間23分)

#### 次年度への改善点

- 教材および指導資料の共有化をさらに推進し、校内における業務の効率化を図ることで、時間外勤務時間の削減につなげる。
- 学習者用端末の活用については、日常的活用場面の拡充を図り、授業における活用率の向上をめざす。
- ICT活用と働き方改革の両立を意識し、効果的かつ持続可能な運用体制の確立を図る。